

## 再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道10号 <small>しんとみ</small> 新富バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 九州地方整備局
<b>起終点</b> 起点：宮崎県児湯郡新富町大字日置 <small>みやざきけんこゆうぐんしんとみちようおおあざひおき</small> 終点：宮崎県宮崎市佐土原町大字下田島 <small>みやざきけんみやざきさどわらちようおおあざしもたじま</small>		<b>延長</b> 4.8km
<b>事業概要</b> 国道10号新富バイパスは、児湯郡新富町から宮崎市佐土原町にかけてバイパス部と現道拡幅部から構成される延長4.8kmの道路であり、交通混雑の緩和や交通安全の確保、沿道環境の改善などに寄与する事業である。		
S41年度事業化	S51年度都市計画決定	S41年度用地着手
S41年度工事着手		S41年度工事着手
全体事業費	約169億円	事業進捗率
計画交通量		25,400～35,800台/日
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 4.6 (残事業) 3.1	総費用： (残事業)/(事業全体) 57/293億円 (事業費：49/224億円) (維持管理費：7.4/68億円)
総便益： (残事業)/(事業全体) 175/1,351億円 (走行時間短縮便益：148/1,169億円) (走行経費減少便益：20/153億円) (交通事故減少便益：6.3/29億円)		基準年： 平成23年
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=4.2～5.0（交通量±10%） 事業費：B/C=4.6～4.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=4.5～4.6（事業期間±20%）		
【残事業】交通量：B/C=2.7～3.4（交通量±10%） 事業費：B/C=2.8～3.4（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.9～3.2（事業期間±20%）		
<b>事業の効果等</b> ①交通混雑の緩和 ・旅行速度の向上 ・損失時間の減少 ・現道拡幅部の混雑度が低下 ②交通安全性の確保 ・現道拡幅部の死傷事故率の減少 ③沿道環境の改善 ・現道拡幅部の騒音レベルが環境基準を達成 ④地域経済の活性化を支援 ・バイパス部4車線化に伴い企業立地が進展 ⑤救急医療活動の支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 新富町長等から国道10号新富バイパスについて早期完成の要望を受けている。（平成22年11月）		
<b>県知事の意見</b> 国道10号は、交通量が多く、特に朝夕の通勤時間帯に現日向大橋でも慢性的に渋滞が発生するなど、地域住民から新橋梁の早期整備を求める要望もなされているところであり、「対応方針（原案）」案の「継続」については、異論はありません。 本年4月に示された直轄事業の事業計画において、現在の工事区間の供用予定年度が平成28年度以降と具体的には示されておらず、今後の供用の見通しが不透明な状況となっていることから、早期供用に向けた一層の整備促進をお願いします。		
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、事業継続		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 現道拡幅部の2車線区間（新富町上富田大淵）の交通量や混雑度に大きな変化はなく、依然として混雑度が1.75以上と高い状態が続いている。		

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成22年度末の事業進捗率は事業費ベースで約63%であり、そのうち用地進捗率は約76%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果が早期発現できるよう、引き続き用地買収を促進するとともに、現道拡幅部の田中地区、日向大橋関連、バイパス部の完成4車線化等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

日向大橋ニューマチックケーソン基礎掘削時における既設橋の変位対策の見直しや掘削時の岩塊撤去及び仮設資機材の存置期間見直し等の変更による増加【約7億円増】

道路構造及び縦断計画を見直し、ポンプ排水から自然流下による排水計画の変更による減【約0.3億円】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しなことがある。